



石巻から能登へ、希望のバトン

石巻・穴水中学校オンライン交流会

繋がる日、3月11日

同じ震災の痛みを経験し、復興の道を歩む石巻の皆様へ。
今日この特別な日に、能登・穴水から私たちの「今」と「決意」をお伝えします。



令和6年1月～3月

離れていても、学びは止めない

令和6年1月～3月にかけて実施された、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業の風景。
困難な状況下でも、日常を取り戻そうとする穴水中学校のチャレンジでした。



ひとつの屋根の下で

小中高の児童・生徒が同じ校舎を共有。中学生が小学生に給食を配膳するなど、非常時だからこそ生た、互いを支え合う異年齢の絆があります。



受験間近の中学生に、
高校生が自ら勉強を教える
姿も日常となりました。

石巻（2011）

震災の痛みの経験

復興への道のり

未来への教訓のパス

希望のバトン

能登・穴水（2024）

困難な「今」を生きる

教訓と勇気の受容

新たな「語り継ぐ者」
への変容



先を歩む人からの言葉

奥能登語り継ぎプロジェクト。3.11メモリアルネットワークの**高橋輝良々さん・阿部任さん**からの講演。
震災を生き抜いた東北の方々の言葉が、私たちの心に深く響きました。



圧倒的な自然の力と、 人の営みの力強さ

4mも隆起した鹿磯海岸の視察を通じ、自然の脅威と命を守る行動の重要性を再認識しました。

同時に、千枚田や輪島朝市、そして穴水スマイルマルシェでの交流を通じ、笑顔で話してくださる地元の方々の姿から、私たちは大きな勇気をもらいました。

私たちも「語り継ぐ者」に

支援を受け取るだけでなく、石巻から受け取ったバトンを胸に。
私たち自身が能登の震災を語り継ぎ、
未来の命を守る存在になります。

1. 支援の
受容

2. 自然への
畏敬

3. 命を守る
決意





NOT TOGETHER
NOT ALONE

共に、前へ。

距離は遠く離れていても、私たちは同じ痛みを乗り越えようとする同志です。
心を寄せていただき、本当にありがとうございます。